



基調講演

マレーシア首相 マハティール・モハマド閣下



アジアおよび日本におけるパラダイム変化

世界平和研究所の十五周年記念で皆様にお話しをする機会を研究所から与えていただいたことに感謝を申し上げます。「新世界秩序におけるアジアの役割」という課題にかなった内容をお話できればと思っています。アジアはこれから世界情勢でより大きな役割を果たすことは明らかですが、アジアは領土の広い大陸であり、欧州のように、均等に発達していません。また、住民は民族的にも文化的にも異なっております。アジアで唯一発達している国があります。それは日本です。韓国と中国はめきめきと追いついて来ていますが、東南アジアの国々とインド亜大陸は中国と韓国より遅れています。そのほかのアジアの国々、たとえば中央アジアと西アジアはさほど進歩していません。

したがって、アジアは国際情勢に関して共通な立場をもつ単一の統一体として意を表すことはできません。



その上、アジア人は現在、国際情勢に関する役割を果たす心構えができていません。いまだに欧州人に従う傾向が残っています。過去の欧州によるアジア支配の遺風かもしれません。

私の言う欧州人とは、欧州の血統を持つ人々のことを指し、現在のアメリカ人、カナダ人、オーストラリア人あるいはニュージーランド人も含みます。欧州本土以外に在住しても、文化的には欧州人であり、欧州以外の人種に挑まれると一致団結をする人々のことを指します。

この団結は民族的なものだけでなく、宗教的なものでもあります。というのは、欧州人は、少なくとも名義上はキリスト教信者で、キリスト教信者として、特にイスラ

ム教徒に対する敵意はいまだに偏見をもたらしています。一時、今より更に反ユダヤ人主義、反ユダヤ的であった欧州の人は、ユダヤ人大虐殺（ホロコースト）の恐怖の念から、自分達の罪を償うために極端な態度をとり、そのため一転してイスラエルによる犯罪を許容しています。

もしアジアが新世界秩序に一役を買いたいなら、まず歴史的な余計なものを取り除くべきです。アジア人は欧州人が洞窟から這い出るよりかなり前に文明化していたことを思い起こすことが必要かも知れません。

歴史上、後進的な民族が追いつき、発展していた民族をしのぐ例がいくつもあります。欧州人はこれを成し遂げました。同じようにアジア人も欧州人に追いつき、世界の大舞台で正当な地位に就くことが出来るのです。

今日、世界で承認されている思想、価値観と体制は欧州に起源しています。欧州の価値観は世界共通のもので、アジア的価値観は存在しないと言われていています。もしあるとするならば、その価値観は間違っている、あるいは劣勢なものでしかないと言われていています。したがって、今日の普遍的な価値は基本的に欧州のものであります。

国民国家は人権、自由と民主主義と同様欧州の概念なのに、国家の独立を否定する国境廃止やグローバリゼーションの概念を、アジアは受け入れるしかないのです。それにアジアは異議すら唱えていません。

ボーダーレス化とグローバル化は欧州の思想に反しているようですが、実は、これは国民国家、独立と自由の概念で創り上げられた欧州諸国家が、アジアの富を搾取する際の障壁を取り除く策略かもしれません。欧州は欧州で、別な方法で国民国家そのものを維持しようとしています。



アジア人は欧州人から奨励された概念を覆したことはありません。アジア人は欧州のプロパガンダに提唱され、普遍的に容認されている価値観や思想に応じなければ、罪悪感にさいなまれますが、欧州人が意見を覆したとき、アジア人はそれを受諾しなければならないと思ってしまうのです。

これではアジア人は単に理念を失っているだけでなく、欧州人から生じる様々な考えを丹念に吟味できない、必要な時にその考えを拒否できない思考途絶に苦しんでいるように見受けられます。欧州人に先導されなければ、国民国家の代わりにグローバル化を支持することはなかったでしょう。

欧州人から生まれてくる考えの中に明らかに有害なものもあります。例えば、市場開放と規制緩和です。

ボーダーレス社会での、自由化と規制緩和の思想が討論される以前、世界経済は順調に成長していました。戦後、日本の急速な経済回復と韓国及び東南アジアの成長は

この講演会は日本財団の助成事業により行っております。



貿易自由化と自由市場のルール思考型貿易の恩恵を受けていませんでした。（ここでルール思考型自由貿易市場という言葉自体が矛盾していることを指摘したいと思います。） 無論、過去の国際貿易体制に欠陥がありました。しかし、この解決策として全面的な自由貿易とボーダーレス化でなければならなかったのでしょうか？ このような極端な解決策しかなかったのでしょうか？

しかしアジア人は自由貿易の発想とそれに伴う変化に疑問を持ちませんでした。容認するだけでなく、多くのアジア人はそれが良いことだと信じました。この仕組みにより、自国の経済が破壊された後でも、アジア人は信念を変えませんでした。



それに反して、殆どの欧州の国々は、自国に害を及ぼすとき、自由貿易を拒否してきました。ヘッジファンド、自動車企業と航空会社の救済はためらわず行いました。農業も強力に保護されています。少しでも脅威があれば、相殺関税や非関税障壁を課して来ます。

透明性はすべての取引の中でさかんに推奨されています。しかし、世界中の貿易の合計より膨大な時価を持つヘッジファンドは透明ではなくても良いのです。このファンドは国、あるいは地域の経済に大きな害をもたらす原因にもなりかねません。

欧州人が推進する組織や体制は、彼らを拘束するものではないのは明らかです。また、都合が悪ければその規範を無視することに躊躇もしないのも明らかです。それでもアジア人はなお傷つけられても、欧州から生まれた考えを信頼し続けています。



アジアが新しい世界秩序の采配に一役買う場合、西洋から生まれて来る考えや概念をより丹念に吟味し始める必要があります。これができなければ、新しい世界秩序で有意義な役割を果たすことができないでしょう。

日本人は模倣者として非難されてきました。欧州製品をまねた質の悪い商品を製造していました。太平洋戦争後、日本は低価格で高品質な商品を製造することを決め、見事に成功しました。それでも模倣者国としか見られませんでした。

変化には善し悪しがあります。日本が近代化を決断したとき、間違った欧州の価値観も取り入れました。鎖国から這い出たとき、征服という手法で帝国を築くことにしました。今、それは過ちだったと本心から後悔をしています。しかし、時をさかのぼって、アジアの中での役割を拒否する必要がありますか？ もし日本がほかのアジア主要国と一緒にこの役割を果たしたいと思えば、日本の貢献度は計り知れないものになるのは明らかです。

アジアは欧州と同じ姿勢を持ってこの課題に取り組む必要はありません。われわれの考え方や価値観を認めさせるために他国を征服あるいは威圧を用いることは必要ありません。日本独自の方法で成功したのを見て、アジアの国々は、自分の意思でその方法を取り入れようとしています。

この講演会は日本財団の助成事業により行っております。



西洋から良い思想が沢山生まれていますが、欧州人は何回もその思想が誤っていたことに気づき、そのため、古い考えを捨て、新しい考えを取り入れてきました。

西洋の思想傾向を調べてみましょう。数々の帝国を築いた絶対王政は、人間社会を治める最も完璧な体制とされた共和政体と交代しました。貴族を抹殺しながらも、「自由、平等、博愛」と叫びました。ついで、産業革命と欧州諸帝国の拡大の時期に、資本主義が勃興してきました。しかし、資本主義の行き過ぎで、社会主義と共産主義を誘発してしまいました。この思想は地上に天国を築くはずでしたが、たった70年で考えを改め、平等主義的な思想を放棄する結果となりました。



今、資本主義は完全に復活しました。自由化、規制緩和、自由貿易、国境のない世界、透明性などは、すべて支配的な資本主義の副産物です。

資本主義を止めるべきではないと言います。かつて、ゼネラル・モーターズが述べたようにゼネラル・モーターズに良いことは、米国にも良い。同様に資本主義に良いことは、世界にも良いといわれています。資本主義に挑戦してはならないと。

しかし歴史は、思想が循環することを幾度となく証明しています。出現、抵抗との戦い、成功、(通常は、人命の多大な犠牲の上に) 人気を得、失敗そして不評判となり、結局、非難され、放棄されてきました。



今日の資本主義の再来と民主主義でさえ、同じ周期をたどらないとは言えないでしょう。すべての思想、法則、体制は、不完全であることをここで主張したいと思います。最終的には、失敗をするのです。失敗するのは、その思想を過剰に営む人々がいるからです。そして、今、資本主義と民主主義は過剰に、過度に熱を入れて宣伝しています。

世界の共同体に途方もない犠牲を与えた上で、資本主義と民主主義が失敗するのを待つべきなのか、それとも、これらの思想を徹底的に吟味し、新しい、あるいは修正を加えた思想、または、思想を差し替えるほうが良いのでしょうか。

アジア人はこの過程で貢献することができます。アジア人にはアジア人のやり方があるのです。欧州人のように、われわれの慣習を押し付けてはいけません。われわれは自分達の体制を考案し、まずその良さを証明するため自国で適用し、成功したなら、他国が追随して来るでしょう。失敗した場合はその体制を修正あるいは退ければよい。自分の創り上げたものに対して狂信的になる必要はありません。失敗したとき、あるいは結果が悪かったときにその体制にしがみつき、支持する必要はありません。思想と体制より結果が最も大事です。

もがきまわっている時、猛反対に会う時に、寂しさを感じることもあるでしょう。しかし完全な体制は存在しないのです。最初の思想と体制の解釈すべてを一つ一つ容

認することに囚われてはいけません。また、初期の発想を改良するには、意に沿わない意見や批評に耳を傾ける心構えをしていなくてはなりません。アジア人には、欧州人等の思想を受け入れ、統合することは不可能ではありません。新世界の秩序にアジアの意見と貢献が成果に反映されるでしょう。

今日、欧州が持つ世界秩序は、欧州のためのものです。万人によって考案された新世界の秩序は世界中の人が恩恵にあずからなければなりません。

万人によって万人のために創り上げた新世界秩序は、富を不公平に分配しないでしよう。

近代国家では、富める者は貧しい者へ所得の再配分をするため、税金を納めなければならないことになっています。グローバル化は実際に世界を一つの国にしまいました。富める国が貧しい国の開発に援助するのは間違っていますか？

富める国はGDPの0・7%を貧しい国の援助に回すことを約束しましたが、殆どの国がこの約束を破っています。そして、貧しい国は貧しい国のままでいます。

貧しい国は、世界が国の生活を保障しなければならないと思っはけません。しかし、富める国が富を得るのに直接あるいは間接的に貧しい国を搾取した場合、富める国が貧しい国を衰弱した貧困から救いあげるのは正道です。

富める者は、非能率的な政府によって、貢献したお金を浪費して欲しくないと言うのも正しいと思います。中国の諺で、「ある人に魚を一匹与えれば、その人は一日食べる。魚の捕り方を教えればその人は一生通して食べる。」というのがあります。

貧しい国に釣竿、つまり必要なインフラを建設し、製品の輸出と必需品を妥当な値段で輸入できるようにするべきです。港、飛行場、鉄道、道路、水道と電気のインフラを建設するべきです。インフラを建設している最中に仕事が発生し、人々のためになる。そして、この収益はまちがいなく自然に増殖するでしょう。

中国のボアオ・アジア・フォーラム（海南島）でも、この提案を提唱しました。話し終わった時の静けさは表現できません。国境を取り除き、国の富を富める者によって、資源を開発することは正当化できるが、そこで生じた富を搾取された国へ還元するという考えに対しては完全な沈黙でしか迎えられませんでした。

アジア人に私の提案を受け入れて欲しいとは申しません。しかし新世界秩序の中にアジアに役割を与える場合、富める者の利益を最大限にするより、貧しい者の収益を最大限にすることが必要です。アジア人がより良い世界にするため、ほかの貢献の仕方があるかもしれません。私はアジア人が、地の恵みを公平に分配できる新世界秩序の創造へ積極的に貢献できると信じています。これが新世界秩序でのアジアの役割でなければなりません。

首相官邸
プトラジャヤ

<http://www.pmo.gov.my>